

# 空は動く、 航空を守る技術を

第2回

# WEATHER-Eye オープンフォーラム

雪氷・雷・火山灰などの特殊気象による航空機運航への影響。  
WEATHER-Eye（気象影響防御技術）により運航安全性・効率性を革新的に向上させます。  
航空工学の枠を超えたオールジャパン体制で研究開発をさらに促進します。

\*WEATHER-Eye: Weather Endurance Aircraft Technology to Hold, Evade and Recover by Eye

平成29年

**11**月**10**日（金）

12:00 受付開始

**13:00-17:30**

**東京大学 武田ホール**

東京都文京区弥生 2-11-16

定員 **300名**  
参加費 **無料**

プログラム

基調講演、最新の研究開発動向 他  
フォーラム終了後交流会（会費制 3,000 円、要事前登録）

参加申込方法

公式 Web ページから申込み  
<http://www.aero.jaxa.jp/publication/event/weye2017.html>

後援/協賛

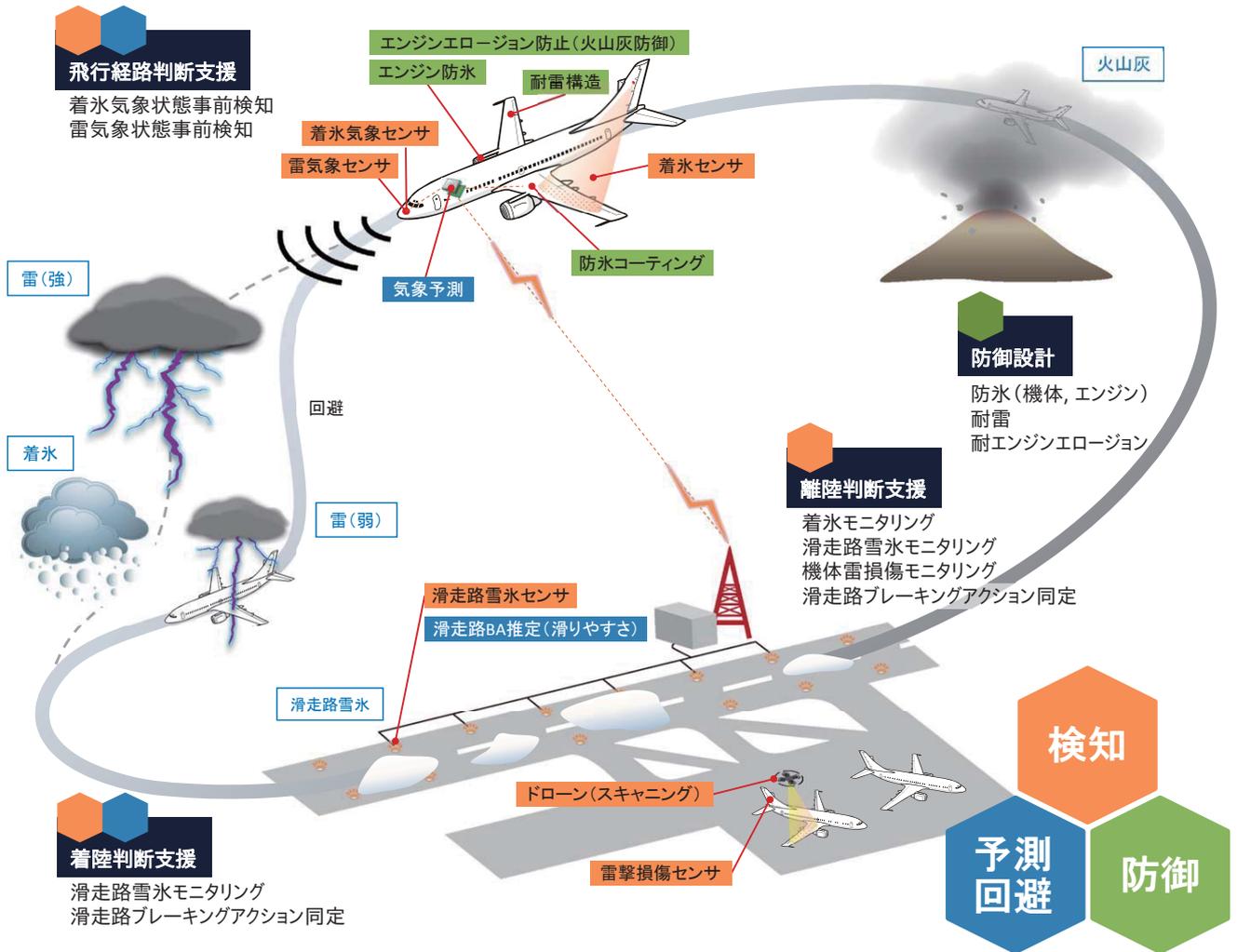
電気学会、土木学会、日本ガスタービン学会、日本機械学会、日本技術士会  
日本気象学会、日本光学会、日本航空宇宙学会、日本航空宇宙工業会  
日本航空技術協会、日本雪氷学会、日本複合材料学会（すべて予定）

主催  
お問い合わせ

気象影響防御技術コンソーシアム  
コンソーシアム事務局 [info-we@chofu.jaxa.jp](mailto:info-we@chofu.jaxa.jp)



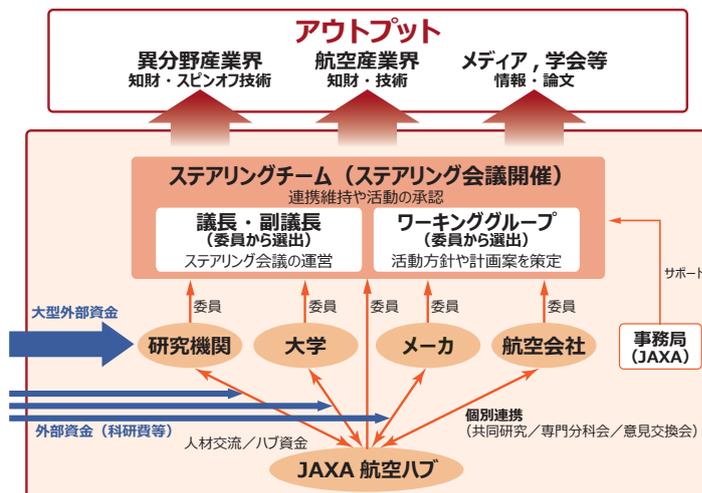
気象状況に対する機体の安全性を効率的に維持するため、機体・滑走路の状態や気象状況を検知し、予測・防御する。



## 気象影響防御技術コンソーシアム

別称：WEATHER-Eye コンソーシアム

航空輸送の増大に伴い事故防止技術の更なる高度化が必要となっています。多くの事故要因（主要因+背景要因）には、雪氷・雷・火山灰などの特殊な気象が絡んでいるため、本コンソーシアムには、気象に係る専門家や滑走路の路面対策に係る土木の専門家など、従来の航空工学の枠を超えた多様な分野からの組織が参加しています。また、航空会社などのユーザー企業も参加し、ニーズとシーズの情報共有の場として今までにない枠組みとなっています。



## 加入機関 (全22機関)

※50音順

- 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
- 国立大学法人大阪大学
- 神奈川工科大学
- 関西大学
- 気象庁気象研究所
- 国立大学法人北見工業大学
- 国立大学法人熊本大学\*
- 株式会社 JAL エンジンアライнг
- 株式会社 SUBARU
- 株式会社 センテシア
- 全日本空輸株式会社
- 国立大学法人東京大学
- 国立大学法人東京農工大学
- 学校法人東京理科大学
- 国立大学法人東北大学流体科学研究所\*
- 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
- 国立大学法人名古屋大学ナショナルコンポジットセンター
- 日本航空株式会社
- 日本特殊塗料株式会社
- 国立研究開発法人防災科学技術研究所\*
- 丸紅エアロスペース株式会社\*
- 国立大学法人山形大学

\* 2017年度 新規加入